

-令和7年度全国学力・学習状況調査概要説明-

1 調査について

実施日 令和7年4月14日(月)～17日(木)
 実施教科 小学6年 国語 算数 理科
 中学3年 国語 数学 理科
 共通 児童生徒質問調査

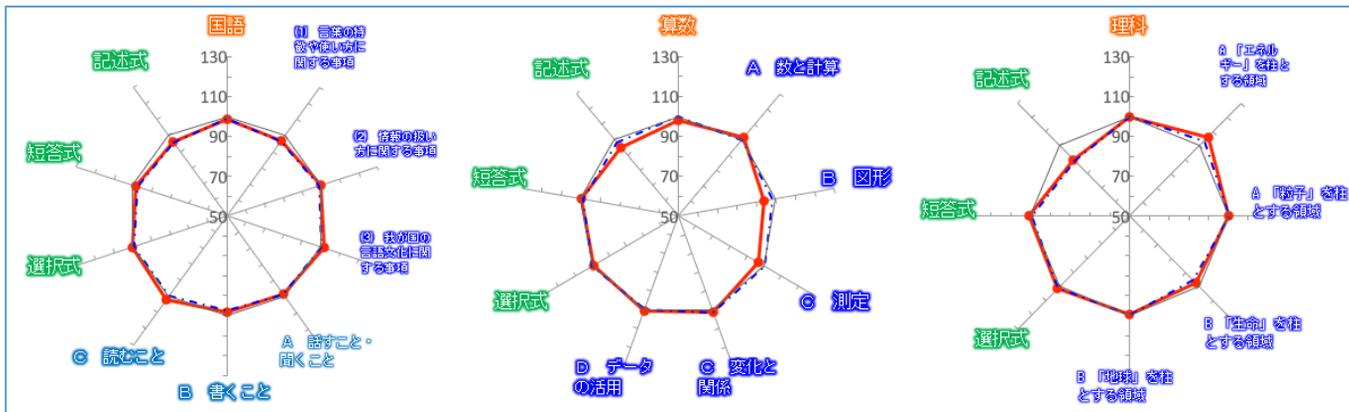
【今年度の調査の特徴】

- ・理科は3年に1度程度の実施。
- ・中学校理科についてはオンライン方式で実施。IRT（項目反応理論）を用いて公開問題と非公開問題で構成され、生徒ごとに異なる問題が出題。

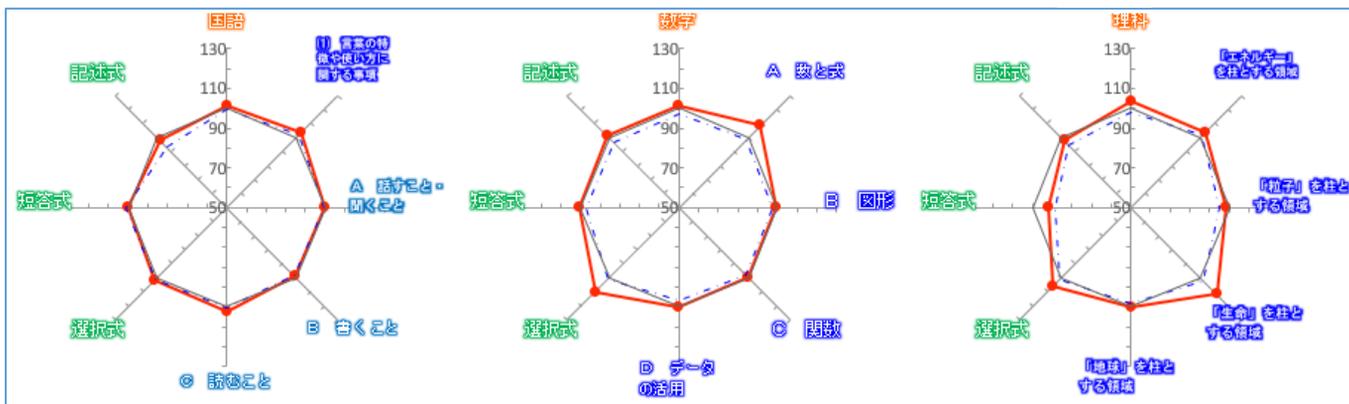
2 柏市調査結果概要

※教科レーダーチャートは各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したもの

小学校



中学校



結果のポイント 小学校 (◇比較的できている点 ◆課題のある点)

- | | |
|----|--|
| 国語 | ◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えて読むことはできている。
◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけながら読むことに課題が見られた。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをわかりやすく書くことを意識することが重要である。 |
| 算数 | ◇小数や分数の加法など、基本的な計算技能は身につけている。
◆台形の意味や性質についての理解に課題が見られた。また、多角形の面積の求め方などを式や言葉を用いながら書く際には、数学的な表現を柔軟に用いながら自分の考えを説明できるようにすることを大切にする。 |
| 理科 | ◇水のしみこみ方について、実験の条件を整理し、得られた結果を基に規則性を見いだすことはできている。
◆全体的に自分の考えを書くことに課題が見られた。結論を導いた理由を表現することや、問題を解決していく中で生まれた疑問から新たな問題を見いだすことをできるようにすることが大切である。 |

結果のポイント 中学校 (◇比較的できている点 ◆課題のある点)

- | | |
|----|--|
| 国語 | ◇文章全体と部分との関係や、表現の効果について考えながら読むことはできている。
◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして表現することに課題が見られた。伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くようにすることが大切である。 |
| 数学 | ◇必ず起こる事柄の確率についての理解や関数のグラフの読み取りなどはできている。
◆平行四辺形などの証明問題を振り返り、条件を変えて統合的・発展的に考えることへの課題が引き続き見られている。条件を変えても同様の性質が成り立つのかという疑問をもって探究する態度を養うことを大切にする。 |
| 理科 | ◇科学的な探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目して振り返ることはできている。
◆化学変化で生じている反応の理解に課題が見られた。化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察するなど、微視的に事象を捉えることが大切である。 ※IRTを用いた結果分析のため全国的な課題を記載しています |

3 課題がみえた問題と、指導改善のポイント

小学校国語 大問3三(2)

柏市正答率 54.6% 無解答率 18.3% 全国正答率 56.3%

言葉の変化について自分が納得したことを、次の条件に合わせて書く。

条件①納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。

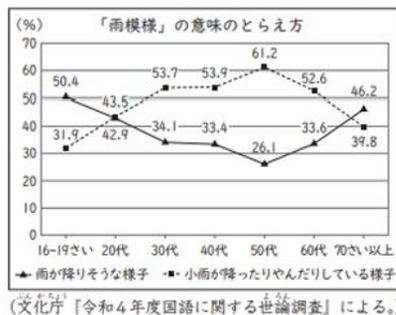
条件②納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

【資料3】
「とてもできる?できない?」
 今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変えたいと思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかかない」「とてもまならない」のように、「とても〜ない」の形で言ったのです。

(注)紙面の関係で資料1～4は一部分のみ掲載している。

【資料2】
「あたらしい」は新しい形
 「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言うでしょう。「あたらし」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたらし」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あたらし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

【資料4】



【資料1】
 言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合は少なくありません。

【木村さんの経験】
 ひいおばあちゃんが「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。ぼくが「かわやって何?」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだだけだな。



〈正答例〉

言葉は年月とともに変化するということになっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あたらし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。

〈誤答例〉

言葉の広がりや深さにも、ふれていただきたいということになっとくしました。これからも言葉を大切にしたいと思います。

誤答例の解説

このように解答した児童は、納得したことは【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、納得した理由を【資料2】【資料3】【資料4】から言葉や文を取り上げて書いていない。(条件②を満たしていない)

指導改善のポイント

複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要である。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的である。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたなら1と2のどちらの直線を引いて求めるかを選ぶ。また、2つの面積がそれぞれ何cm²になるのか、その求め方を図3から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書く。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

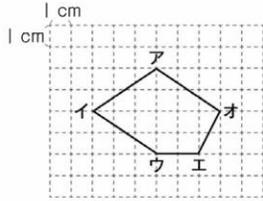


図3

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積＝たて×横
＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。

 わかな
私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。

 ゆうた
私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

〈正答例〉

【番号】 1

【求め方】 三角形アイオの面積は、 $6 \times 2 \div 2$ で求めることができます。台形イウエオの面積は、 $(6+2) \times 2 \div 2$ で求めることができます。

〈誤答例〉

【番号】 1

【求め方】 三角形アイオの面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。台形イウエオの面積は、(上底+下底)×高さ÷2で求めることができます。

誤答例の解説

このように解答した児童は、図形の面積の求め方を言葉の式で記述することはできているが、必要な長さを見出して式や言葉を用いて記述することができていない。

指導改善のポイント

多角形の面積を求める際に、基本図形に分割するなど、面積の求め方を知っている既習の図形を見いだして、面積の求め方を考えるようにすることが重要である。その際、どのように分割したかを明らかにして、分割した図形の面積を求めるために必要な辺の長さなどを捉え、その図形の面積を求めることができるようにすることが大切である。その上で、多角形の面積の求め方を式や言葉を用いて表し、説明できるようにすることが大切である。

【ちらし】に、小学生の感想をもとに今年的美術展で工夫したことを書き加える。
 条件①今年的美術展の【工夫】と、【工夫】と結び付く小学生の【感想の一部】を選択する。
 条件②1で選んだ【工夫】と【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を用いて書く。

【ちらし】(更新版②)

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
- B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらおう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。
- イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
- ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

第一中学校 美術展



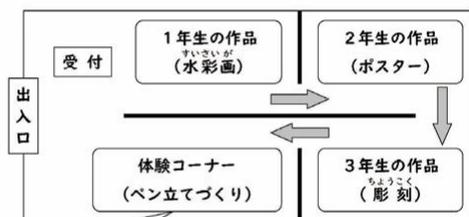
毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
 私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日(土) 10時~16時

場所 第一中学校 体育館

会場図



体験できる時間(各回30分間)

①10時~ ②11時~ ③12時~ ④13時~

中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

〈正答例〉

昨年の来場者から、どうやって作品を作ったのか知りたくなったという感想をもらいました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。

〈誤答例〉

昨年は、おみやげのペン立てを私もつくってみたいという感想をもらいました。しかし、今年は、自分でペン立てをつくる体験コーナーがあります。

誤答例の解説

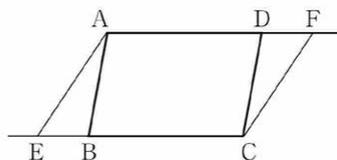
このように解答した生徒は、接続する語句や指示する語句を用いて、書くことはできている。一方で、【工夫】と【感想の一部】との関係を適切に示して書くことができていないと考えられる。

指導改善のポイント

根拠を明確にするためには、自分の考えが事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切である。

平行四辺形ABCDの辺CB, ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E, Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。

(2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直しなさい。



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$②
ウ	仮定より、 $DF = BE$③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$④
オ	④より、 $AF = EC$⑤

①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

〈正答例〉

エを選択し「②、③より、 $AD + DF = BC + BE \dots \textcircled{4}$ 」と記述しているもの

〈誤答例〉

ア・イ・ウのいずれかを選択し、記述しているもの、または無解答であるもの

誤答例の解説

ア、イ、ウのいずれかを選択している生徒が3割程度いた。この中には、イを選択し、「 $AF = CE$ 」という解答がみられた。これは、結論から導かれる性質を根拠として用いてしまっていると考えられる。

指導改善のポイント

証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

◆ICTを活用した学習状況

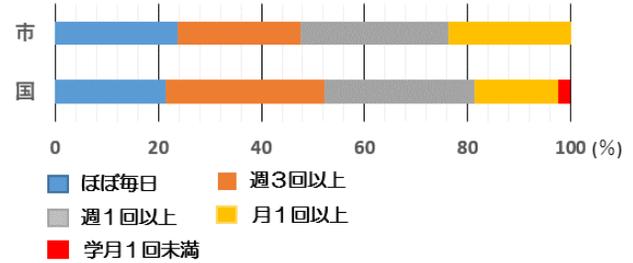
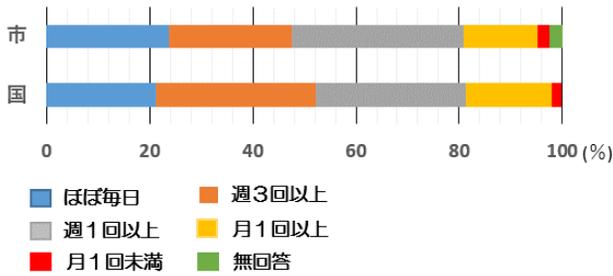
<学校質問紙>

調査対象の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

<全国との比較>

【小学校】

【中学校】



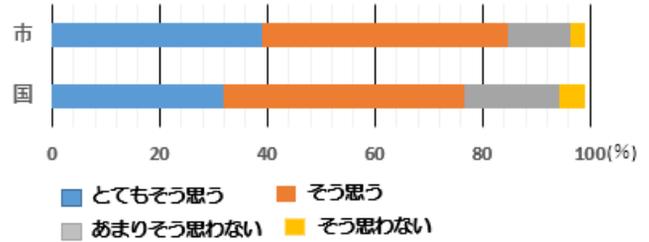
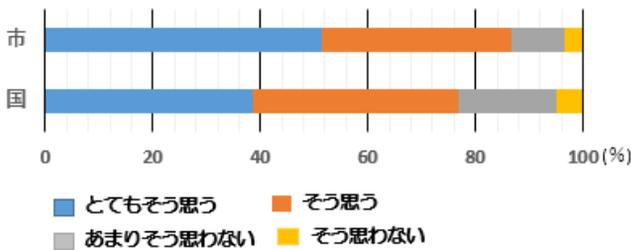
<児童生徒質問紙>

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか

【小学校】

<全国との比較>

【中学校】



柏市の「ICTを活用した学習状況」は、効果的な場面において使用するようになってきており、児童生徒の活用力に関しては全国を上回る結果となりました。また、クロス集計よりICTを効果的に活用できていると回答している児童生徒は正答率が高いという傾向が見られました。

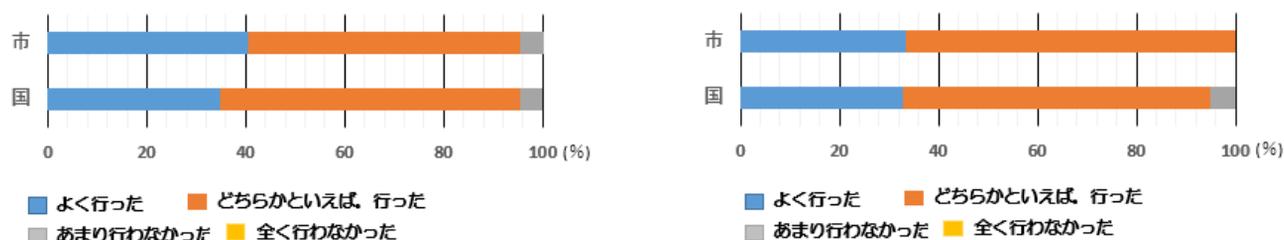
柏市では、ICT機器の利点を活かしたわかりやすい授業実践を行い、児童生徒の学習への意欲向上につなげていけるよう努めています。

◆主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取組状況等

<学校質問紙>

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

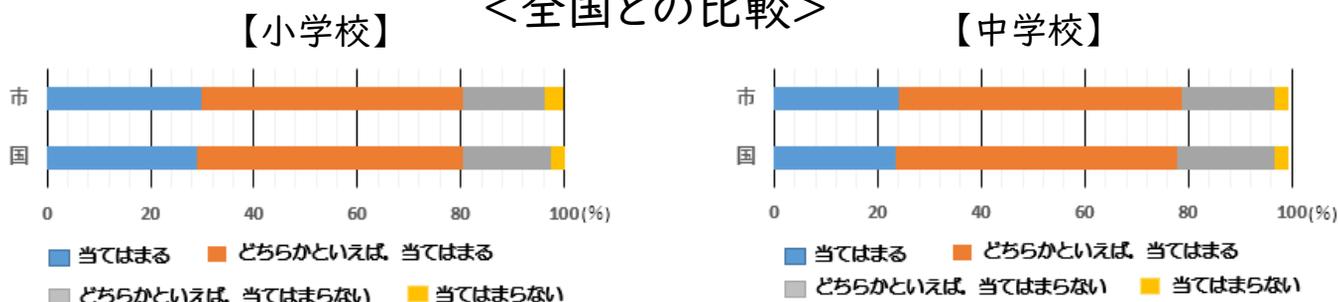
<全国との比較>



<児童生徒質問紙>

小学校5年生(中学校1,2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

<全国との比較>



柏市の「主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取組状況」は、全国と比較しても同等か、それ以上で、良好な状況です。また、クロス集計より主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。

柏市では今後とも、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研修を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいきます。

※ 全国学力・学習状況調査の分析結果について
本調査は必ずしも過去の学習内容全体を網羅するものではなく、把握できるのは、あくまでも個々の学力の特定の一部であることを申し添えます。